



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)片倉1丁目プロジェクト新築工事	階数	地上4F
建設地	神奈川県横浜市神奈川区片倉1丁目476番1	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用、第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	470 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、病院、集合住宅、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2021年9月15日
敷地面積	2,714 m ²	作成者	石井 正治
建築面積	1,240 m ²	確認日	2021年9月25日
延床面積	4,826 m ²	確認者	三枝正利

外観パース等

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 84% (92 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 84%

④上記+ 84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

音環境	2.9
温熱環境	2.9
光・視環境	2.9
空気質環境	2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

機能性	2.5
耐用性・信頼性	2.9
対応性・更新性	3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

生物環境	2.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	2.0

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

建物外皮の熱負荷	4.3
自然エネルギー	2.3
設備システム効率化	4.5
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	3.5
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化への配慮	3.6
地域環境への配慮	2.9
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		その他 特になし。
Q1 室内環境 住居部分: 2.0% ≤ [昼光率]。 居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。	Q2 サービス性能 0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	Q3 室外環境(敷地内) 植栽をして良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー 日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 [BEI _m] = 0.61、[BEI] = 0.88	LR2 資源・マテリアル 節水マなどに加えて、節水型便器も採用している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率 84%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



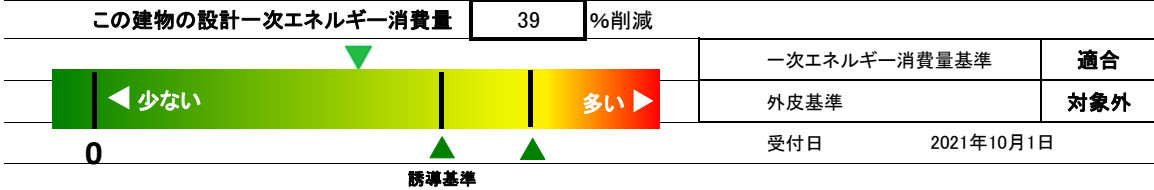
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)片倉1丁目プロジェクト新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。(過半の住戸が満たす)

③[BEIm] = 0.61、[BEI] = 0.88

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



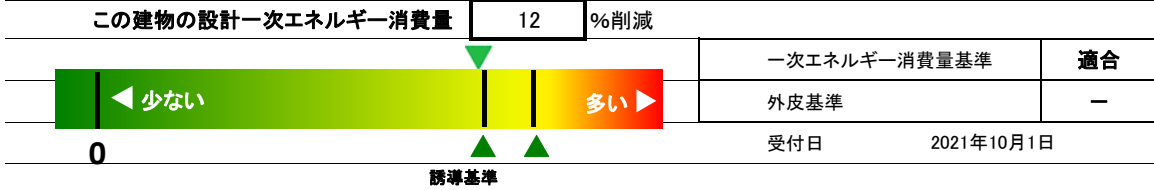
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)片倉1丁目プロジェクト新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 3

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。(過半の住戸が満たす)

③[BEIm] = 0.61、[BEI] = 0.88

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 3

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.4
(仮称)片倉1丁目プロジェクト新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.4

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境										2.8
1 音環境				2.8	0.15	2.9	1.00			2.9
1.1 騒音				3.0	0.47	3.0	0.48			-
1.2 遮音				3.0	0.47	3.0	0.48			-
1		開口部遮音性能		3.0	0.89	3.0	0.30			-
2		界壁遮音性能		3.0	0.11	3.0	0.30			-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			-
1.3 吸音				1.0	0.06	1.0	0.04			-
2 温熱環境				2.6	0.35	3.1	1.00			2.9
2.1 室温制御				2.3	0.50	3.3	0.50			-
1		室温	快適・働きやすさ	3.0	0.56	3.0	0.61			-
2		外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	1.0	0.33	4.0	0.39			-
3		ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	3.0	0.11	-	-			-
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20			-
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30			-
3 光・視環境				2.6	0.25	3.1	1.00			2.9
3.1 昼光利用				1.9	0.33	3.5	0.30			-
1		昼光率	快適・働きやすさ	1.0	0.52	5.0	0.52			-
2		方位別開口	快適・働きやすさ	-	-	1.0	0.24			-
3		昼光利用設備	快適・働きやすさ	3.0	0.48	3.0	0.24			-
3.2 グレア対策				3.0	0.26	3.0	0.30			-
1		昼光制御	快適・働きやすさ	3.0	1.00	3.0	1.00			-
3.3 照度				3.0	0.13	3.0	0.15			-
3.4 照明制御				3.0	0.28	3.0	0.25			-
4 空気環境				2.5	0.25	3.0	1.00			2.7
4.1 発生源対策				3.0	0.57	3.0	0.63			-
1		化学汚染物質	快適・働きやすさ	3.0	1.00	3.0	1.00			-
4.2 換気				1.9	0.37	3.0	0.38			-
1		換気量	快適・働きやすさ	3.0	0.50	3.0	0.33			-
2		自然換気性能	快適・働きやすさ	1.0	0.00	5.0	0.33			-
3		取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	1.0	0.50	1.0	0.33			-
4.3 運用管理				1.0	0.06	-	-			-
1		CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	-	-	-	-			-
2		喫煙の制御	快適・働きやすさ	1.0	1.00	-	-			-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			2.8
1 機能性				2.4	0.40	2.6	1.00			2.5
1.1 機能性・使いやすさ				2.9	0.40	3.0	0.60			-
1		広さ・収納性	快適・働きやすさ	1.0	0.00	-	-			-
2		高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	3.0	0.00	3.0	1.00			-
3		バリアフリー計画	快適・働きやすさ	3.0	0.99	-	-			-
1.2 心理性・快適性				1.1	0.30	2.0	0.40			-
1		広さ感・景観	快適・働きやすさ	3.0	0.04	3.0	0.50			-
2		リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	2.0	0.04	-	-			-
3		内装計画	快適・働きやすさ	1.0	0.91	1.0	0.50			-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-			-
1		維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-			-
2		維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-			-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-			2.9
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-			-
1		耐震性	防災	3.0	0.80	-	-			-
2		免震・制振性能	防災	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.9	0.30	-	-			-
1		躯体材料の耐用年数	防災	3.0	0.20	-	-			-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	2.0	0.20	-	-			-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	2.0	0.10	-	-			-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	3.0	0.10	-	-			-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	4.0	0.20	-	-			-
6		主要設備機器の更新必要間隔	防災	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-			-
1		空調・換気設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
2		給排水・衛生設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
3		電気設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
4		機械・配管支持方法	防災	3.0	0.20	-	-			-
5		通信・情報設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.2	1.00			3.1
3.1 空間のゆとり				3.4	0.09	3.4	0.50			-
1		階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60			-
2		空間の形状・自由さ		4.0	0.40	4.0	0.40			-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.09	3.0	0.50			-
3.3 設備の更新性				3.0	0.82	-	-			-
1		空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
3		電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
4		通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
5		設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-			-
6		バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2017年版v.1.4
 (仮称)片倉1丁目プロジェクト新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.4

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40	-	-			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	⑫地域性への配慮	1.0	0.50	-	-			-
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	4.3	0.20	-	-			4.3
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	2.3	0.10	-	-			2.3
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	4.5	0.50	-	-			4.5
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-			3.0
集合住宅以外の評価				3.0	0.31	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
集合住宅の評価				3.0	0.69	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			3.4
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-			3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-			-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-			-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-			-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-			-
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.60	-	-			3.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.11	-	-			-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-			-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-			-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				4.0	0.22	-	-			-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-			-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.22	-	-			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-			-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-			-
1 消火剤				-	-	-	-			-
2 発泡剤(断熱材等)				4.0	0.50	-	-			-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.2
1 地球温暖化への配慮				3.6	0.33	-	-			3.6
2 地域環境への配慮				2.9	0.33	-	-			2.9
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-			-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-			-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-			-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-			-
2 污水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
3 交通負荷抑制				4.0	0.25	-	-			-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-			-
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-			-
1 騒音				3.0	1.00	-	-			-
2 振動				-	-	-	-			-
3 悪臭				-	-	-	-			-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-			-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-			-
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-			-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-			-
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-			-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70	-	-			-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-			-

上記以外の重点項目									
<事務用途>									
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組		-	-	-	-	-	-
<住宅用途>									
健康と安心									
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策		3.0	-	-	-	-	-
2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策		3.0	-	-	-	-	-
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策		3.0	-	-	-	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策		1.0	-	-	-	-	-